

## 祝辞

私が、みなさんくらいるとき、祖父からこのような言葉を習いました。

少年老い易く 学成り難し

一寸の光陰 軽んずべからず

若い頃は、あっという間に過ぎていきます。

6年間という、長いような小学校生活も、あっという間ではなかったですか。

じつは、みなさん、これまでの人生の半分が小学生だったって気づいてましたか。楽しかったですよ。私も、みなさんと一緒に、5年生のとき田植えをしました。110年前に発明された田植定規を使いましたよね。6年生のときは、歴史の授業をさせていただきました。この地域について、300年くらい前から現在までのことを勉強しましたよね。みなさんの人生はまだ十二年ですが、何百年という歴史に続いて今があることを、実感しませんか。そして、今年は〇〇小学校創立年です。

〇〇小学校をご卒業される〇〇名の児童のみなさん。

ご卒業おめでとうございます。

みなさまの明るく輝く瞳に、この6年間の充実した日々を、感じる事ができます。

保護者の皆様におかれましては、この日の感激いかばかりのものかと拝察します。そして、この6年間、PTA活動に多大なるご協力いただきましたこと、高いところではございますが心より感謝申し上げます。

目を閉じると6年間の日々が思い出されるでしょう。数々の失敗や涙を乗り越え、今日、小学校を卒業する子どもたちのたくましいこと。家庭

の宝から、地域の宝として本当に頼もしく成長されました。

ここに至るまで、子どもたちに大いなる愛を持って指導し、導いてくださった校長先生をはじめ、教職員のみなさま、本当にありがとうございます。

そして、雨の日も風の日も、厳しくも温かく子どもたちを見守り続けてくださった地域の方々。保護者の代表として心よりお礼申し上げます。

さあ、後わずかでみなさんは新しい道に旅立ちます。いっしょに学んだ○○名の友だち全員と時を同じくするのは今日が最後です。

明日になれば、他の地域に引っ越す友、別の学校へ進学する友、そして時がたてば、高校、就職、大学、みんな別々の道を歩みます。でも、この学校で一緒に学んだ友だちは、一生の宝物です。

これからの人生、みなさんは多くの困難に突き当たるでしょう。そんなとき、心の支えとなるのが、ここにいる○○名の友だちなのです。みなさんが大きな壁に突き当たってしまったとき。もう一度、この学校を訪ねてください。古い歴史を重ねた、この学びの庭に咲く花々が、そして、同じ時代を過ごした友が、心の支えとなってくれるでしょう。

そして、30年後くらいかな。この中の誰かが校長先生や、PTA会長となつて、この場所に立っていてくれると嬉しいな。

君たちの進む道に光りあれ！  
おめでとう。

令和○○年○月○日

PTA会長

